

「北区まちづくりビジョンの改定について」聴取意見の一覧

① 仮称「北区まちビジョン」に対して

No.	意見内容	意見者
1	北区に古くから住んでいる方、新しく入ってこられた方が融合して住みたくなる街、ずっと永く住み続けたい街となるようなイメージの言葉を入れると良い。	奥田委員
2	区民協働が伝わるようなワード（「みんなの」等）が入ると良い。	野田委員

② 理念に関して

No.	意見内容	意見者
1	理念として現「北区まちづくりビジョン」の基本方針を引き継ぐことは良い。	加我会長 陳代委員 椿委員 野田委員
2	理念実現のためには、区民が日頃の暮らし、生活の中で感じていることの中から何が大切で何ができるかを話し合い、それを行政のしくみに活かすことが大切である。子ども、高齢者、障害者を見守る共同体意識づくりが必要である。	巽委員

③ 社会情勢に関して

No.	意見内容	意見者
1	いつでも大切な自然災害への対応を基盤として、時代の変化に即応して変化している社会情勢の内容を適切に整理したものだと思う。	加我会長
2	コロナ禍の中で、新しい生活様式ができていくが、人間にとって最も大切なつながる幸福は、共感力をもって実現できるものだと思う。	巽委員
3	コロナ禍がコミュニティの希薄化に拍車をかけている。自粛要請で様々なイベントや集会が中止になり、人と人がつながる機会が失われている。つながりを持つ場を作っていく工夫が必要である。	羽根委員

④ 将来像に関して（全般）

No.	意見内容	意見者
1	世の中に楽しいことはたくさんあり、楽しいだけで人は動かないが、絶対条件ではあるので、良い。住むなら北区だとは思いますが、住んでみると子育て世代がたまたま多いという印象で、子育てするなら北区とは結び付かない。	荒川委員
2	多くの世代にとって、北区に住むことが「安心」につながることはもちろん、そこに心の豊かさを与える「たのしい」を組み込むのはとても良い。また、「たのしい」というキーワードは前向きで分かりやすいものである。	陳代委員

3	「これをしてみたい」という思いは、人を楽しくさせてくれる。「不満」が「楽しい」になると、自発的な取組が始まり、プロジェクトの持続性も生まれると思う。子どもから高齢者、障害者、外国人、区内に住んでいる方々、一人ひとりが幸せになるような将来像が望ましいと思う。お金をかけなくても、「今日はたのしかったね」「わが街は良いところだね」と毎日を過ごせるような街、人を作ることが大切だと思う。	異委員
4	「いろんな」がつくことで多様性を感じられて良い。	野田委員

⑤ 将来像に関して（「たのしい」のイメージ）

No.	意見内容	意見者
1	みんなが笑顔で朗らかに暮らす様子	加我会長
2	たくさんの人を集めることができる	天野副会長
3	自治会・サークル・こども会・趣味との関係で、「人と出会うこと」が「たのしい」と感じる。「人と接することで」「たのしい出会い」がある。モノより体験の多い人が「たのしい幸福感」を感じると考える。	今野委員
4	いろいろなものが有機的につながったときに感じるもの。いろいろな行事やイベントをつなげていき、「どこかで聞いたことがある」状態となるもの。子育てや買い物などの身近な話題と結び付けることが大切。	陳代委員
5	五感、感覚を使って、まちを楽しむ「ソフトフェア」を発見するような街歩き	異委員
6	お祭り等のイベントを思い浮かべがちだが、1日で終わってしまう。日々の暮らしの中のお役立ちの教養講座、趣味等を通して継続してつながっていけるようなものが良い。	羽根委員
7	様々な世代の住民、企業や団体が関われる楽しいイベントが開催されている（伝統的なものも含む）。楽しいだけで終わらず、楽しく学べる。楽しむためには、心にゆとりが必要で、心のゆとりには生活の安定やゆとりが必要。誰も排除されずに楽しめること。	松川委員

⑥ 北区の魅力に関して

No.	意見内容	意見者
1	大泉緑地やその他公園の存在は北区の魅力の一つだと思う。	奥田委員
2	今の社会では、「住んでいる場所＝1日の大半を過ごす場所」ではないのだと思う。私の経験上、住所地の良さは次のことで感じるができると思う。 ①休日（イベントなどの時間の過ごし方関係） ②住環境（治安・静かであるかどうか・家賃・交通の便など） ③教育（小中学校の雰囲気・給食があるか・学校の近さなど） ④子育てのしやすさ（幼稚園や保育園・子育てサークル・公園など）	陳代委員

	⑤買い物（スーパーがあるかどうか、特に食料品や日常雑貨関係） ⑥その地域特有の楽しみ（お祭り・花火大会など）	
3	北区の魅力が現状は交通のアクセスや自然、歴史という北区が持っているものだけなので、将来的に住民の取組など、新たに生まれた魅力が入ると良いと思う。	野田委員

⑤ 北区の課題に関して

No.	意見内容	意見者
1	古くからの地域と新しいマンションなどの地域間の交流のあり方に課題があると思う。	奥田委員
2	課題に「子育て支援」とのみ記載すると、誤解を招くと思う。子育てをしている中で、行政はいろいろと頑張ってくれていると感じている。「より一層の」といった言葉が入ると良いのではないか。	野田委員
3	交通の便が良いことから、通勤・通学者が多く昼間の人口が堺市の中では少ない。個々人の意識が高くても中々地域活動に参加できない現状があると思う。意識の高い人を取り込めないということは残念であり、課題ではないだろうか。	羽根委員

⑥ 戦略に関して（「北区力」等の用語）

No.	意見内容	意見者
1	「北区力」の3つはそれぞれ、必要な力である。「楽しい」としているが、「たのしい」と平仮名の方が「やさしさ」と「たのしさ」が伝わりやすいように思う。	加我会長
2	「北区力」は役所用語のイメージがあるので、もう少し人を引き付ける用語にしてはどうだろうか。その他の力についても、一文字ずつ読まずに伝わる工夫が必要だと思う。	荒川委員
3	①「北区力」②「活動への原動力」③「違いを受け止める力」④「地域で続ける力」について、国連のSDGsや仙台防災枠組み等で言われているインクルーシブの意味を含ませ、また、「北区力」こそが北区の原動力となると受け取れることなどから整理した用語を使用してはどうか。それぞれ①「北区力」（北区をよくするための原動力）、②「うごかす力」もしくは「活動力」（潤沢なマンパワーと住民主役の活発なまちづくり活動）、③「ささえあう力」もしくは「包容力」（排除しない、排除させない、排除されない）、④「つなげる力」もしくは「継続力」（歴史・文化を大切にし価値を伝え続ける）を提案する。（別紙1参照）	松川委員

⑦ 戦略①「行動のきっかけを作る―「楽しい」ことを新しく始めることで」に対して

No.	意見内容	意見者
1	「たのしい」ことを既に実践されている方々もおられると思う。「たのし	加我会長

	い」ことを続け、さらに新しい「たのしい」ことを始めるといったことが表現できればと思う。	
2	自身の校区で実施している「子どもまつり」で実際に「楽しい」ことを始めることを実践している。子どもたちにやりたいこと（例えばヨーヨーすくい）を企画してもらい、企画に基づいて運営も子どもたちが自ら行っている。一般的には大人が企画や運営することを子どもが行うことは、日常とは違う世界を知ることとなり、子どもたちにとって楽しいものとなっている。	天野副会長
3	活動の始まりを考えると、お誘いからだと思う。私の経験上も先輩に誘われて活動を始めた。口コミが大切なのだと思う。	陳代委員
4	子育て支援課での手づくり CLUB にたまに参加している。手先が器用な方や何か作りたい、役に立ちたいというお母さんが集まって、徐々に人数も増え、作るものも凝ったものになってきた。みんなの小さな一歩が集まって可愛い作品が作られている。	野田委員
5	保育園の園長という仕事を通して保護者の話を聞く機会があり、その中で、「サークルやイベントに参加してみたいと思うが、一步踏み入れられないのは内容やどんな人たちが参加しているのかわかりにくいから」といった声が多い。まずは、試してみる「お試し体験」のような参加ができるきっかけになると思う。	花咲委員
6	（北区まちづくりアンケートにおいて）興味があっても地域活動に参加する時間が無い、きっかけが無い、曜日時間帯が合わないというのは身近に手軽に参加できる機会を増やすと良いと思う。また、専業主婦・主夫については、理由として「きっかけが無い」というのが多いが、その年齢層は子育て世代か、もしくは介護の世代なのだろうか。その世代のニーズに合わせてテーマを決めるのも一つだと思う。	羽根委員
7	きっかけはいくつも何度も作れるものであり、多様で繰り返し行われることが大切だと思う。きっかけ作りのネタだしや実行が住民主体でやりやすくなるしかけとそのための活動を支えるしくみ（補助事業や補助金など）が、行政内が縦割りのままで地域にきっかけを落としていくと、同一の受け皿しかない地域にとっては疲弊していくだけになる。一つのきっかけが様々な効果をもたらすことを、住民も行政も理解した上で、一石二鳥、三鳥になるような形にする必要があると思う。そのために、行政内部できっかけづくりに使える防災、防犯、福祉（子育て、高齢、障害、困窮者、外国人など）、の取り組みを交通整理する仕組みは必ず必要である。住民の活動力が最大限になるようなしくみづくり、しかけづくりを行政がどう下支えするのかを戦略として出せば、住民もより活動をがんばろうと思うようになると思う。	松川委員

	住民といっしょに行政も動いて、ともに汗をかく心構えだということを態度で示すことが、住民との信頼関係構築に最も有効的で、行政に対する信頼性構築のために必要なことである。これがないと、つながることも継続させることも、難しさがアップすると思う。	
--	---	--

⑧ 戦略つながる機会を作るー「楽しい」が横に広がり縦に掘り下げる視点を持つことに対して

No.	意見内容	意見者
1	横への広がり縦への掘り下げは大事なことと思う。	加我会長
2	「子どもまつり」では、子どもたちの楽しい企画を大人たちが大人の知識や経験により、縁の下で支えている。それが相乗効果となり、大人たちにとっても楽しいものとなっている。自治連合会と関わりのある他団体の協力も得ている。	天野副会長
3	趣味等の世界を活用し（自治会館での囲碁、将棋、カラオケ、お茶会など、公園等でのテニス、野球、グランドゴルフなど、学校でのソフトボール、ポートボール、絵画、演奏など）実施し、現場の活動によりコミュニティによる人とのつながる機会を作る。	今野委員
4	青少年指導員では、夏休みの流しそうめん大会という楽しいイベントを年1回の大きな行事として位置付けることでメリハリのある行事計画ができ、以後メンバーも増えている。各種団体での行事、自治会での行事、校区内での行事、北区内での行事を、それぞれ1年間を通じてお互い重ならないように工程を組み、それぞれの行事に関わる人材をうまくかみ合わせて、特定の人に偏らない、また経験の少ない人も参加できる活動とすることで、人の参加が得やすく、また、継続できていくと思う。	奥田委員
5	独自性を打ち出すことだと思う。「自分の地域にはこのような特徴がある」ということを示すことが、他者との接点になりうるのだと思う。	陳代委員
6	多世代が集まるようなイベントが戦略②のイメージ。	野田委員
7	人とつながる＝楽しいと考え、気軽に相談できる、会話が出来る場所を設けると良い。子育て、介護、健康、教育等身近な問題を取り上げ、保育所、小学校、地域会館、集会所等を利用し定期的実施できれば良いのではないだろうか。	羽根委員
8	様々な人々に主体的に関わっていただくには、違うグループに属する人々をつなぐことができる人材を、そういった人材が活躍する場やしかけが必要である。排除をなくすこと、多様性を受容することの大切さを認識して	松川委員

	活動している市民はいるはずなので、そのような人々が中心になって、それぞれ違う人々が相互理解できる場を作っていく必要があると思う。その中には、学校や企業なども含んで考える必要があると思う。それぞれのグループで活躍している人々を紹介するようなツールや場をしかけて、盛り上げていくようなプラットフォームを形成できればいいと思う。	
--	---	--

⑨ つながりを持続させる仲間を作るー「楽しい」で協同の意識を醸成することに対して

No.	意見内容	意見者
1	ここでの「協同」は、「協同」「共同」「協働」もしくは「協生」がいいのか、一度、議論ができればと思う。	加我会長
2	「子どもまつり」を自治連合会としての毎年行うイベントに位置付けることで、みんなで実施していくというルーティンができ地域が誇る行事となっている。	天野副会長
3	フランクに集える場所の提供があればと思う。時代に応じた、また旬な講師をお願いした講座を開催し、かつ終了後「仲間」ができるような仕掛けも必要ではないかと思う。	奥田委員
4	地域の良さを知り、その地域を好きになってもらうことが継続して活動する鍵だと思う。自分の好きな地域だからこそ、その地域を楽しんでもらう方法を生み出し、その地域を「良くしたい」と思うのだと思う。	陳代委員
5	戦略③はどちらかといえば課題だと思う。自治会もそうだが、加入者が減っており、何かの役をするのは敬遠されがちである。今の時代に合った方法で、柔軟に仲間に入れるような仕組みが必要だと思う。	野田委員
6	協同の意識の醸成については、仲間（と思う人々）と何かの一つの目標に向かってやり遂げる満足感・達成感を味わえるような体験をすると、次の意欲になり、継続するのではないかと。体験の内容は一人ひとりの興味や関心に合わせたものにすると良いと思う。	花咲委員
7	戦略②で作った機会を継続し行うことで一緒に活動できる仲間ができ、人材発掘もできるのだと思う。	羽根委員
8	しかけやしきみ、プラットフォームを作ることは、比較的簡単で、多少知識とやる気があればどの地域でもできる。問題は継続することである。そのためには、各グループや頑張っている人々の跡継ぎを作って、自律的自発的に動けるような形に変化させていく必要がある。自律性を育むには、これまで書いたような市民と行政の協働の場において、住民が主体である、住民が主役であるということが自覚できるよう自己決定するというプロセスが要所要所で仕込まれている手続きが必要なのと、またそれが他の住民にも伝わるような広報が有効だと思う。	松川委員

⑩ 戦略について（全般）

No.	意見内容	意見者
1	イメージ図では、戦略①、戦略②、戦略③と進み、また、戦略①に戻り、もしくは、新たな戦略①がはじまり、戦略②、戦略③と進み、また、新たな戦略①がはじまるといった循環や「たのしい」や私、私とあなた、みんながスパイラルアップするようなことが表現できればと思う。	加我会長
2	核になるものを作っていくことが大切である。北区は住みやすい街であるが、それ以上の付加価値をつけることが大切。イベント等では、初年度は新鮮な内容に取り組めるが、年を重ねるごとに、中身が同じようなものになってしまう。	天野副会長
3	戦略には、地元企業や大学などの参加協力支援が必要不可欠だと考える。	今野委員
4	(3)「自分とは違う文化や習慣を共有してきた」がピンとこない。 (4)「長年みんなで保存し…」も古墳やお祭りのことかと推測できるが、今一つ分かりにくい。「特性(5)～(7)を踏まえ」とあるので、それとリンクできるような表現、表記が欲しい。	野田委員
5	「マリリンの家」のような団体が増えると、北区力がUPすると思う。	羽根委員

⑪ 基本方針1「防犯・防災の推進」に関して

No.	意見内容	意見者
1	「自分たちのまちは自分たちでまもる」と言う自治防犯・防災意識向上が重要である。更に、地域の担い手をどう探すかが重要テーマである。	今野委員
2	みんなで楽しめる要素を考え、オープンな企画を用意することだと思う。防災や防犯の一プログラムとして、「街歩き」があると思うが、北区の〇〇地域だけの企画ではなく、北区民みんなにオープンな企画にすると楽しくなり、みんなで考える機会（入り口を作る。戦略①②になります）になると思う。後は、地域で偏りが出ないように、開催場所を持ち回りにして、自分の地域が開催場所になったら、企画をその地域の人にしてもらう（戦略③）。	陳代委員
3	ウィズコロナの防災を考える必要があると思う。 戦略①に関しては、「楽しい」をきっかけに個人で防災や防犯の何かを始めるのは難しいと思う。簡単にできることや、子どもと一緒にできるアイデアなどを提供してサポートが必要だと思う。戦略②でイベントを開催。②から①へと繋げる。戦略③は3/11などの毎年決まった日に②を繰り返す。	野田委員
4	自治会ごとに特色のある防犯・防災への取り組みをしていると聞いている。小中学校の学校行事と抱き合わせで訓練をすると保護者の参加が見込	花咲委員

	まれる。遠回りのようであるがきっかけづくりになり、継続していく可能性がある。自助・共助・公助にもつながっている。	
5	自分の住んでいるまちの問題、課題を抽出。自分でできること、やらなければならないこと、近所の助け合いが必要なこと、公助を求めないといけないことを整理する。また、きっかけづくりとして、世代ごとに抱える問題や心配ごとが異なるので、身近に感じてもらうため、世代ごとにアプローチすると良いと思う。	羽根委員
6	自助を高めるには、防災リテラシーを高める必要があります。防災リテラシーには次の3つの要素がある。①脅威の正しい理解、②必要なそなえの実施、③とっさの行動への自信の3つである。 ①の脅威の正しい理解ですが、要は自分たちの住むまちの抱えるリスクについて正しく把握し、正しく恐れましょうということです。単純に震度や津波高や津波到着時間を知るだけでなく、より具体的に自分の生活がどう影響されるのかについても理解する必要があります。 ②の必要なそなえの実施は、大きく分けると2つに分類されます。備蓄や防災倉庫のような物質的なそなえと、家庭内での相談、地区防災計画や避難所運営マニュアルといったソフト的なそなえの2つである。 ③のとっさの行動への自信は、訓練に参加して実際に体に覚えこませる、この一点に尽きる。(別紙2参照) 公助を高めるには、人に関わる部局(自治推進課、福祉、子育て関連の所管など)が横断的に災害について考えるプロジェクトチームか何かを作り、住民との取り組みを橋渡しするような、交通整理する場が必要である。	松川委員

② 基本方針2「子育て支援の推進」に関して

No.	意見内容	意見者
1	子育て支援は、必要な情報の発信や相談体制の充実、さらに、活動には担い手づくりや地域活動への支援などが重要と考える。	今野委員
2	保育士へのサポート、母親への保育の考え方のサポートをするため、研修会などを開催するのも一つかと思う。	奥田委員
3	子育て世代に寄り添うのが大切だと思う。様々なサークルをはじめとする活動に一人で参加するのが不安な場合やなかなか仲間ができず続かない場合もある。子育てサークルを紹介して、しっかりと繋ぐところまで寄り添うことが大切だと思います。子育て世代が孤立しないように、しっかりと他者と繋ぐことができると、その先に「楽しい」があるのかもしれない。	陳代委員
4	戦略①は「たのしい」がスタートであってほしいが、「苦しい」「しんどい」「困った」がスタートのお母さんもある。きつく聞こえるかもしれないが、楽しめている人は、自ら活動する(活動の規模は個人差がある)ので大丈夫である。問題なのはしんどいお母さんをどうサポートするかとい	野田委員

	うことだと思う。戦略②については、サポートを求めるお母さん方が区役所に来られたついでに必要なサポートごとに話し合える場があっても良いのではないか。	
5	こども園として地域の子育てサークル支援を行っているが、各々のサークルで中心メンバーとして活動している人が育っても、次の方へ継承されにくい。また、サークル等へ参加されない方への援助が行き届かない。何らかの支援ができればと思う。	花咲委員
6	子育ての孤立感、負担感の解消を図り、全ての子育て家庭を地域で支える取組としてその拡充を図るため、次の取り組みを中学校区で実施してはどうか。 ① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 ② 子育て等に関する相談、援助の実施 ③ 地域の子育て関連情報の提供 ④ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施	巽委員
7	おやじの会のような、子育て世代の父親が集まれる、ママ友男親バージョンのようなものを作るなど、共稼ぎ世帯がもっと一般的に受け入れられるような風土や文化を作り、それが推進されることによる利点や効果をしっかりと伝えて、区内の企業や事業者と連携して方針を出す必要があると思う。	松川委員

③ 基本方針3「地域の魅力創出の推進」に関して

No.	意見内容	意見者
1	地域の大泉緑地や金岡公園等を活用し、イベント・サークル等の実施。また、四季を感じる樹木や水辺空間を活用した施策が必要だと考えます。	今野委員
2	地域の魅力をどんどん発掘していく取組のため、広報さかい北区版等を活用することも良い。魅力は、その地域に住んでいる人にとっては気づかず、他地域の人の視点によって分かることもある。そのような視点を取り入れていくというのも必要だと思う。	陳代委員
3	ほんものとの出会いづくりが必要だと思う。根のある暮らし、子どもたちの手本になる生活づくり、地域の人々の暮らし等が豊かになる取組をしていくことが大切である。	巽委員
4	私自身、北区の魅力をまだまだ知らない。やはり、戦略②から戦略①への動きも必要だと思う。	野田委員
5	歴史的資産や地場産業に恵まれていると思うが、北区は他からの転入者も多く、そういった強みを知らない人が多い。世界文化遺産登録に因んで、地域の魅力を学ぶイベント、地場産業の企業見学、職業体験等で堺市の産物を身近に感じ、愛着を持てるように、さらにそれらを発信できるスキル	羽根委員

	をも身に着けることができると良い。	
6	発掘して、創出して、それを区外に広める活動までを、住民に主体的に考え、担ってもらふプロセスが必要である。その中で、高齢者と子ども、障害者、外国人など、地域の多様な住民と一緒に北区のウリを探すチームを作り、それをどうプロデュースすれば名前が売れて人気が出るのか、考えて実践する場を提供できれば良いと思う。今は、コロナウイルス感染症の影響で、デジタルシステムや技術の進歩、一般化が進み、物理的距離がネックになることは少なくなった。SNS だけでなく Zoom などのオンライン会議システムや You Tube などを駆使して、遠くの街の誰かに、北区の良さをどう伝えればいいのか、考えて実践する環境を行政として提供できれば楽しく広報できるのではと思う。	松川委員

④ 基本方針全般

No.	意見内容	意見者
1	基本方針1から3全般に対し、発信の仕方に工夫が必要だと思う。区役所や地域でも様々な施策・活動は行っていると思うが、知られていないのではないかと。例えばLINE@を活用し、本人が意図せずとも情報に触れる機会を増やし、発信する方法が有効ではないか。フェイスブックは「開く」行為が必要であり、LINEの方がより良いと思える。転入のときに登録していただくことや、イベント時の案内も考えられる。	荒川委員
2	基本方針1～3に共通することであるが、「でき上がった企画に参加する」→「楽しみ興味をもってもらう」→「企画に加わる・手伝う」→「企画を組み立てる側になる」というフローを用意することが大切だと思う。何かやってみたいけれど、やり方が分からないと言う話は、大阪府立大学ではよく聞く。地域の方にも一定数いるのではないかと。そのような人々を巻き込むため、今の地域NPO以外の受け皿も必要だと思います。今回このまちビジョンで、この戦略を立てるのでしたら、このフローを区役所がバックアップできるのではないかと。思う。	陳代委員
3	住み続けるにあたり、「安全・安心」は重要である。	椿委員
4	推進していくために、「たのしい」工夫が必要だと思う。楽しく実施するほうが人も集まり、長く続けられると思う。	野田委員

⑤ 実施体制に関して

No.	意見内容	意見者
1	個人としての区民、グループとしての地域活動団体、これらを支える区役所の3者の視点は重要なことだと思う。 区民に企業市民（区民）として企業の協力もあっても良い。	加我会長
2	地域活動団体の定義が分かりづらいと思う。	荒川委員

⑥ その他

No.	意見内容	意見者
1	実際に区民に出される際は、資料1にも書かれているが、デザイン性や分かりやすい言葉は必要だと思う。	陳代委員
2	北区まちビジョンを円滑に推進していくためには、広報紙・ホームページなどを活用し北区まちビジョンの内容を区民全体に周知し、共有することが重要である。	巽委員
3	個々の住民はあまり「区」を意識して生活していないと思う（「市」や「町」を意識している）が、北区まちビジョンをきっかけに、個の住民が結びつくことで「区」を意識することにつながれば良いと思う。	椿委員
4	北区まちビジョンをどこまで周知し、認知・理解してもらえるかが一番大切である。内容は良いものですが、具体的にどのように取り組んでいけばよいのか、今後の区民評議会ですっかり話し合わないといけないと思う。	野田委員